

この8月、世界で初めて原子爆弾が投下されてから64年が経ちました。  
けれども、いまだ原子爆弾の被害に苦しむ人々は世界中にいます。

『楽園に降った死の灰 《マーシャル諸島共和国》』シリーズ核汚染の地球1  
森住 卓 写真・文 新日本出版社 2009年 1575円 科学絵本

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆  
高校★☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

地上の楽園と呼ばれた南の島、マーシャル諸島。さんご礁でできた29の島々です。  
この本をめくると南の島の色鮮やかな美しい写真が各ページにのっていて、ここが地上の楽園と呼ばれた理由がすぐにわかります。

けれども、この島々に住む人々は健康ではありません。

1954年、広島に落とされた原子爆弾の一千倍の威力をもった水爆実験が、アメリカによってマーシャル諸島近くのビキニ環礁で行われたのです。

この日、風はビキニ環礁からマーシャル諸島に向かって吹いていました。

そして翌日、水爆実験による死の灰がマーシャル諸島にふりそそいだのです。

<子どもに手渡すときのポイント>

毎年この8月は、戦争、核兵器についてもう一度考える時期です。過去のことと思わずに子どもたちに本を手渡していくのも私たち大人の務めではないでしょうか？

今回は今年の3月から刊行されている「シリーズ核汚染の地球」の1巻をご紹介します。この本に載っている写真のほとんどが美しい南の島の写真です。文章も大変短く読みやすいです。写真の美しさと文章にされた現実とのギャップが、核の悲惨さを克明に伝えてくれる本です。

シリーズ核汚染の地球 森住 卓 文・写真

- ① 楽園に降った死の灰：マーシャル諸島共和国
- ② ムスタファの村：イラク共和国
- ③ 六本足の子牛：カザフスタン共和国



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。